

【泉区】令和3年第3回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和3年9月7日 14時00分 ～ 15時10分
場 所	泉区総合庁舎4階 4ABC会議室
出席者	<p>【座 長】 横山 勇太朗 議員</p> <p>【議 員：3人】 梶村 充 議員、麓 理恵 議員、源波 正保 議員</p> <p>【泉 区：31人】 深川 敦子 区長</p> <p>村田 二郎 副区長</p> <p>秋元 秀臣 福祉保健センター長</p> <p>竹田 良雄 福祉保健センター担当部長</p> <p>木我 陽子 福祉保健センター医務担当部長</p> <p>安達 秀昭 土木事務所長</p> <p>小林 修二 泉消防署長</p> <p>ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和2年度泉区個性ある区づくり推進費事業実績</p> <p>2 令和3年度泉区個性ある区づくり推進費執行状況</p> <p>3 令和4年度泉区予算編成の考え方（案）</p> <p>4 その他 新型コロナウイルス感染症の状況について</p>

発 言 の 要 旨	<p>1 令和2年度泉区個性ある区づくり推進費事業実績</p> <p>梶村議員：コロナが蔓延し、コロナ対策に苦勞していると思う。感染者も8月になってかなり増えた。PCR検査の実施状況について、区役所では把握しているのか。</p> <p>斎藤福祉保健課長：PCR検査については医師会の協力が得られ、ほとんどの医療機関でやっていただけていると承知している。そのため、現状行政側で調整することはほとんどない状態。かかりつけ医もしくは、家庭内で最初に陽性になった人の検査をした医師のところで家族全員検査していただく形をご案内している。</p> <p>梶村議員：検査数については、保健所は把握しているのか。</p> <p>斎藤福祉保健課長：保健所には陽性者の数しか上がってこない。そのため、泉区内の病院で何件検査が行われたかというのは把握していない。</p>
--------------	---

梶村議員：よくマスコミなどでも言われているが、検査が行き届かないことで、陽性者もすべてを把握できていないかもしれないという心配がある。その点はどう考えているか。

斎藤福祉保健課長：患者の数が増えるときは、陽性率が非常に上がってくる。患者が減ってくると、同程度の検査数でも、陽性率が下がってくる。先ほど、検査のほとんどを地域の医療機関にお願いをしていると申し上げたが、施設内で集団感染が起こった場合などの集団検査については、保健所がコントロールしている。保健所で行っている検査において、一番ピークの頃は半分以上が陽性であったが、最近はほとんどが陰性。陽性率は明らかに下がってきている。そのため、検査が行えていないため陽性者数が減っているということではないと考えている。

梶村議員：防災について。泉区は、想定外の雨が降ると厳しいところがまだある。阿久和川の水位が上がることは避けられないため、地元も心配している。河床を削ってはどうか。

時尾土木事務所副所長：阿久和川については、地元の方と道路局河川部の職員と現地視察もした。今後については、河床を掘り下げることが計画通り進め、河床に生えている草や体積している土砂を取り除くなど、できるだけ水位が上がらないように取り組んでいきたい。また、上流側の河道が狭く水位が上がるということもあるので、気を付けて見ていきたい。

梶村議員：和泉川や境川もあり、雨が降ると大変であるため、整備できる部分があれば整備していただきたい。

源波議員：資料中「施策4 健康と福祉のまちづくり」について。まず、和泉川健康みちづくり事業について、オンライン配信を行った感想は。

斎藤福祉保健課長：初めてオンラインで実施させていただいたが、思いのほか申し込みが多く、会場と同じ盛り上がりで参加いただけたと感じている。会場にいらっしゃった方についても、密にならなかったことで安心して参加できたというお言葉もいただいている。オンライン配信のようなことが日常的に行えると、参加方法の選択肢が増えると感じている。

源波議員：泉区の魅力はやはり水と緑。そういった意味で、この事業はハード面ソフト面どちらにもわたり、素晴らしい内容だと思っている。資料には新規ボランティアやサポーターの募集に関する記載もあったが、イベント後、実際に動きがあったか。

安達土木事務所長：イベントの中で水辺愛護会の総会を行い、和泉川に関わっている団体の紹介をさせていただいた。その後、和泉川関係で愛護会が増えたかと言われると、増えていない。ただ、活動エリアが和泉川からは少し離れているが、ハマロードサポーターが令和2年度に2団体増えた。

源波議員：イベントの中で各種団体の紹介があり、地域の連携もうかがえ、とても良いと思いながら拝見した。また、健康のみちを歩いた人にハンドタオルを渡していたと思うが、反響はどうか。

宮川高齢・障害支援課長：ハンドタオルについては全て配布されたので、一定の効果があつたと考えている。

源波議員：何枚配布したか。

宮川高齢・障害支援課長：確認し、のちほど回答させていただく。

源波議員：担い手不足というのが地域の中の大きな課題だと思うが、そのためにはこのような事業をできるだけ多くの区民の方に知っていただくことが大切である。オンライン配信ではより多くの方が参加できることもあり、ぜひ今後も関係各所と連携しながらこうした取組を進めていただければと思う。

梶村議員：担い手不足に関連し、和泉中央北あやめ公園がようやく完成したが、愛護会活動については近くの施設の方がやっていただくと聞いている。公園の運営の担い手についても今後いろいろなことを考えていかななくてはならないと思うが、今回どのような経緯でそのような形になったのか。

時尾土木事務所副所長：まず地元の愛護会にお声かけさせていただいたところ、他にも公園を掛け持ちしているため手一杯ということだった。そこで、当該公園の前の施設の方にお声かけさせていただき、資料をお渡しご検討いただいた。その結果、愛護会活動をしてほしいとのご回答をいただいたので、公園愛護会として参加をいただいた。

梶村議員：良いことだと思う。担い手不足と言われているが、公園等の近隣に施設があつたりすれば、愛護会活動などについてぜひ声かけをしてほしい。

源波議員：先ほどの和泉川健康のみちの話に付け加えさせていただきたい。せせらぎルートのことだが、ベンチや四阿^{あずまや}ができていて、歩いている方に聞いてみたら、距離的にもちょうど良いとのことだった。また、菜の花畑や桜の広場など、地域の方の声でいろいろなものができてい

て、目玉になる施設がある。健康づくりがテーマではあるが、興味を誘うという意味ではそういったものも必要だと思っている。周辺は農用地でかなり制限があるが、その中でも工夫しながら地域の方やボランティアの方に意見を聞き、充実させていただきたい。

それから阿久和川について。住民の方の中からは河川改修工事は行っているが、遊歩道が設計されていないという声もある。設計上難しい部分もあると思うが、できる限り阿久和川の方も魅力づくりに力を入れていただきたい。また、新たに中和田雨水幹線ができるが、合わせて岡津方面も、雨水幹線について検討する必要がある。局と連携し、土木事務所からも意見を言っていただきたい。

2 令和3年度泉区個性ある区づくり推進費執行状況

源波議員：資料 38 ページの地域ユースプラザ事業について。困難を抱える若者・家族の相談会の相談状況は。本人、家族のどちらが来ることが多いのか。

山崎こども家庭支援課長：ユースプラザが行っている相談事業については、支援者向けの研修などを踏まえ、当日参加されている保護者の方の相談をお受けしている。なかなか当事者である引きこもりの若者を相談場所に結びつけるまでに時間がかかることもあるので、家族や支援者の方へのアプローチから行っている。セミナーとは別に、区役所の方でも月に1回相談を行っている。

源波議員：本人は来られないので家族が相談に来るのだと思うが、その後どうするかが大事。アドバイスを受けて家族と一緒に動いたり、本人が自ら動けるように働きかけたりしているのだと思うが、家族が相談に来るといのはおそらくよっぽどのこと。相談に来た家族の背後には本人がいるということで、本人にまで支援が繋がればいいが、繋がらない場合は訪問という方法もあると聞いている。訪問も大事だと思う。また、医療的な支援が必要な場合もあるかもしれない。月に2回のユースプラザ事業だけではなく、そういったことまで考えているのが心配。家族が相談に来たということを受け止めた上で、その背後の子供のことまで目がいかないといけない。潜在的にまだ引きこもりの方がたくさんいることや、本人まで支援が届いていない事が心配であり、一緒に考えたい。

斎藤福祉保健課長：セミナーについては、地域ケアプラザで開いているこ

とが多い。ユースプラザからは、地域ケアプラザが協力的にやっているのは泉区くらいだと聞いている。引きこもりの問題を抱えている家庭は、親御さんの介護が必要になることがきっかけでご相談に見え、実は面倒をみている引きこもりの子や孫がいることがあぶり出されてくる場合がある。そのため泉区では、日常的に関わっているケアプラザの方で状況を把握したり、地域により近いところでセミナーを行ったりということで取組を行っている。源波議員がおっしゃるとおり、なかなか支援につなげることは難しいうえ、情報も行き渡りにくい面はあるが、今後もいろいろな方法を考えてやっていきたい。

源波議員：個々に状況が違う。傾聴ボランティアなどが3、40分聞くだけでだいぶ違うと思う。取組の幅を広げ、ニーズに合った形で進めてほしい。

梶村議員：深谷通信所跡地活用について。外周道路と3号線、4号線を道路について、都市計画決定に向けた検討を行うとあるが、予算が2千万円となっている。検討については局で行うのか。

矢口基地対策課担当課長：道路局で行っている。現在、どのように連絡道路をつなげていくかなどを検討しているところであると聞いている。

梶村議員：どういう形でつなげていくか、概略の図面などが出るのはいつ頃なのか。

矢口基地対策課担当課長：道路局に確認し、あらためてご説明させていただきたい。

梶村議員：墓地の件も含めて伺いたい。

矢口基地対策課担当課長：あらためてご説明させていただきたい。

源波議員：資料8ページの泉ゆめが丘土地区画整理事業について。バス路線の再編について検討していると思うが、区役所の方でもぜひいろいろな人たちの意見を聞いて進めていただきたい。また、区外の方を呼び込み、地域を巻き込んだマネジメントをしなくてはならないと思うが、企業に対するインセンティブなども含め、良いまちにするために取り組んでもらいたい。

河村区政推進課長：ゆめが丘の区画整理事業はまたとないチャンス。ここに住まわれる方の生活の利便性を含め、この事業を起爆剤にして泉区全体への波及効果を狙っていきたく思っている、ゆめが丘をPRし、内外から注目されることで泉区のプレゼンスをさらに高めていきたい。

3 令和4年度泉区予算編成の考え方(案)

梶村議員：戦略的な情報発信について。泉区の場合、買い物難民などさまざまな課題がある。それらを解消するための取組を局でも進めているとは思いますが、区役所が絡み、区役所から発信できるような形にしてもらいたい。交通の問題もそうだが、用途地域の見直しなど、横浜市の方できめ細かくできるようになっている。技術的なことも含めていろいろと考慮しなくてはならないことはあるだろうが、ぜひとも区から局へしっかり伝えてほしい。

深川区長：地域の状況や要望について一番分かっているのは区役所なので、区の方からも局にいろいろと意見し、一緒に考えていきたい。

梶村議員：住環境という要素は非常に大きいと思う。泉区に来てくださいという呼びかけを早くにできるようにしてもらいたい。

深川区長：ゆめが丘区画整理事業も含め、どのようなタイミングで情報を出しながら泉区のPRをしていくかが重要だと思う。タイミングを逃さないように的確に情報発信等をし、泉区の魅力をさらにアップしていきたい。

梶村議員：環状4号も工事が始まっている。日々いろいろなことが変わってきていると思う。変わっているところも含めてぜひ、どんどん発信してもらいたい。

4 その他 新型コロナウイルス感染症の状況について

源波議員：今後の泉区の集団接種会場の状況について。横浜市内では泉区を含んだ3区は17時以降接種を行わないことになっているが、理由は。

原田総務課長：実施の時間帯については、健康福祉局と区の医師会が調整し、区もオブザーバーとして調整させていただいた。17時以降については、医師の先生方の都合をつけていただくことが難しいため、実施しないこととなった。

麓議員：急激に感染者が増えてきたことで福祉保健センターでの対応が大変だったと思うが、最初に陽性であることを伝えてから、次のパルスオキシメーターや食糧を配付したりするのに平均どれくらいかかったか。

斎藤福祉保健課長：パルスオキシメーターと冷凍弁当については、県の方で用意することになっている。区で調査が終わったあと県に情報を送

ると、パルスオキシメーターはほぼ翌日には届く。食糧については、感染者数と自宅療養者数の増加に伴い現在は4日程度かかると説明を受けている。パルスオキシメーターは特に必要なものなので、患者の調査が終わった時点ですでに症状が悪そうであれば、泉区で用意したものを即日お渡ししている。若く軽症の方には、県からの配付を待っていただいている。食糧については、濃厚接触者のご家族がいる場合など援助が受けられる場合、3、4日は自力で頑張っていたいただきたいということを丁寧にご説明している。

麓議員：泉区は高齢者、障害者施設がたくさんある。これまであった例として、障害者の施設の中でかなり重い障害がある方が陽性になられた。その場合病院になかなか入れないため、施設の関係者が濃厚接触者でありながら、これ以上濃厚接触者を増やさないために、陽性患者さんの面倒を見ていた事例があったようだ。21世紀は感染症との闘いともよく言われている。泉区では、高齢者施設では比較的施設同士の連携をとっているようだ。障害者施設は障害種別等によっても規模ややり方などがさまざまだとは思いますが、せっかく軽スポーツ大会等を通して障害者の方への理解を深める機会をつくっているのも、横のつながりを作っていければと思っている。この点については回答を、いうわけではないが、やはり今後考えていかねばいけないことではあると思う。

斎藤福祉保健課長：大変ご心配をおかけしたと思う。たしかにグループホーム等の障害者が陽性になった場合、けがなどをされた際なかなか受診を受けてくださる病院がないという状況があり、応急処置等でやり過ごして乗り越えていただいたということが現実としてあった。8月下旬以降、陽性患者も受診できる協力病院がいくつかできてきた。陽性者がけがをしたときや、コロナの症状であって入院するほどではないが治療が必要な場合などについて、在宅や外来での対応ができる体制が整ってきている。自宅療養であっても、なるべく治療が受けられるようにサポートしていきたい。

麓議員：一緒に考えていきたい。

宮川高齢・障害支援課長：先ほど障害者施設の話があった。麓議員がおっしゃる通り、障害者の方は障害特性がそれぞれ異なっているため、施設の連携を進めるのは難しい部分もあると思っている。とはいえ、非常に重要な課題だと受け止めている。泉区の自立支援協議会などを通じ、これからは横の連携も強化するよう、区役所も一緒になって支援してい

	きたいと考えている。 5 その他 (特になし)
備 考	